

佐賀県研究成果情報

カンキツウイルス SDV の診断法としてのイムノクロマトキットの有効性と試料の採取時期					
〔要約〕カンキツウイルス SDV を圃場で診断できる方法として、新しく開発されたイムノクロマトキットが有効である。試料の採取時期については、ELISA の場合と同様に、春期に採取した未硬化の春葉が有効である。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	果樹病害	対象	カンキツ

〔背景・ねらい〕

カンキツ栽培で問題となる温州萎縮病ウイルス（SDV：satsuma dwarf virus）を圃場で診断するために、イムノクロマトキットが開発された（（株）ミズホメディー、福岡県総合農業試験場 果樹苗木分場の共同出願）ことから、その有効性を明らかにするとともに、試料を採取するための時期について明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 本キットは、添付された簡易磨砕容器で試料を磨砕し、キット上に磨砕液を数滴垂らすと、約 15 分ほどで検定が可能で、SDV 感染の有無を圃場で直接診断できる（図 1）。
- 2 SDV 感染の有無についての判定結果については、従来の ELISA 法と一致する（データ略）。
- 3 検定可能な時期については、従来法の酵素抗体結合法（ELISA 法）と同じく、春期に採取した未硬化の春葉に限定される（表 1）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 品種更新等を行う場合は、必ずウイルスの診断を行い、ウイルスフリーの母樹から穂木を採取すること。
- 2 SDV 診断用のイムノクロマトキットについては、（株）ミズホメディー（佐賀県鳥栖市、0942-85-0303）から販売されている。

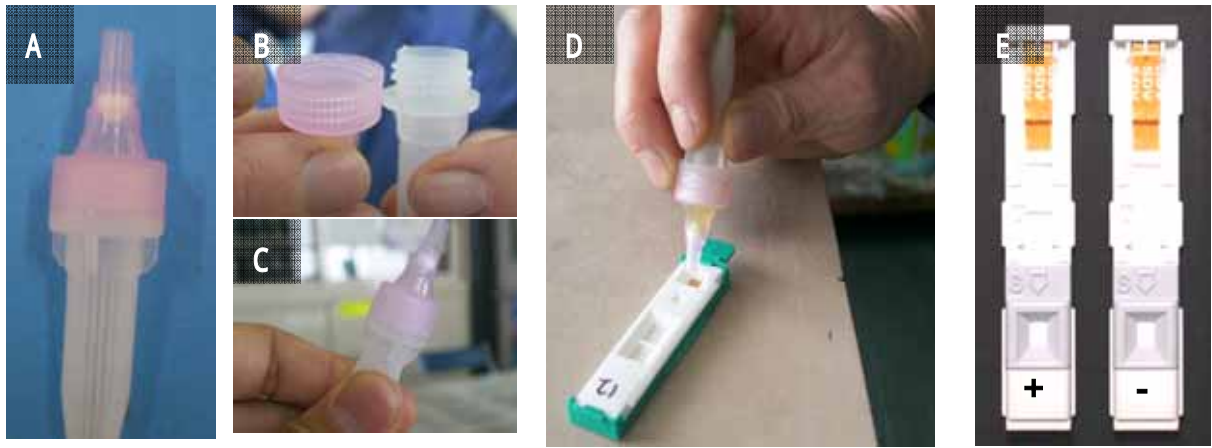


図1 イムノクロマト法の検定手順

A・B: 試料磨砕容器の外観, C: 試料の磨砕(手もみ), D: 判定キットへの磨砕液の添加, E: 判定

表1 試料の採取時期がSDV診断イムノクロマトキットの診断結果に及ぼす影響

樹		5月上旬採取 (未硬化の春葉)	5月下旬採取 (未硬化の春葉)	6月中旬採取 (硬化した春葉)
1 (陽性)	東	+	+	-
	西	+	+	-
	南	+	+	-
	北	+	+	-
2 (陽性)	東	+	+	-
	西	+	+	-
	南	+	+	-
3 (陽性)	東	+	+	-
	西	+	+	-
	南	+	+	-
	北	+	+	-
4 (陰性)	-	-	-	-
	-	-	-	-

1) +: 陽性判定, -: 陰性判定

[その他]

研究課題名：難防除ウイルス病から柑橘農家を救う画期的な診断法と台木の開発

予算区分：国庫補助

研究期間：平成 16 年～平成 18 年

研究担当者：井手洋一、田代暢哉（現在 上場営農センター）

発表論文等：平成 18 年度 佐賀県果樹試験場 業務年報